

埼玉電工組がキャラバン隊編成 川越などで電気安全啓発

埼玉県電工工事工業組合川越支部（戸口昌志支部長）は電気を安全に使用するための啓発活動としてキャラバン隊を編成し5日、川越市役所など4カ所を訪問。訪問先で運動の趣旨を記した趣意書を手渡し、啓発活動が成果を挙げられるよう協力を求めた。

経済産業省は電気事故が発生しやすい8月を「電気使用安全月間」と定めており、その運動の一環として巡回が行われたもの。今年は40年目でポスターデザインを関係団体が統一して作成する

など目標達成へ力を入れている。

キャラバン隊は2班に分かれ、川越市役所と川島町役場、鶴ヶ島市役所と坂戸市役所をそれぞれ担当支部員が訪問。一行はそこのたすきを肩にかけ、横断幕やのぼりを手を持ち電気使用安全月間をPRした。

川越市役所を訪ねた際には吉野川裕之副支部長が「普段はチラシやポスターを駅前などで配りますが、新型コロナウイルス

スの感染拡大防止のため取り止めます。市役所や公民館に置いていただければ幸いです」と述べる

と、川合善明市長は「皆さま方にはいつも公共工事の関係でお世話になっております。これからもよろしくお願いします。電気使用安全の啓発に協力します」と応じた。

趣意書には、電気使用安全に関する啓発、感震装置や避雷器の取付推進、劣化した電気設備の改修などを盛り込んだ。



川越市を訪れたキャラバン隊

電気安全首長に訴え

埼玉電工組
川越支部 自治体通じPR

埼玉県電気工事工業組合川越支部（戸口昌志支部長）は5日、8月の電気使用安全月間に合わせ、県内4市町を訪問し、取り組みへの協力を求めた。新型コロナウイルス感染症拡大。



川合市長（左）に趣意書を手渡し、協力を求める柴崎副支部長

同日は同支部のメンバー3、4人ずつ2班に分かれ、「キャラバン隊」を編成し、担当エリアの川島町、川越市、鶴ヶ島市、坂戸市を訪問。首長らに安全月間の趣旨を説明した上で、啓発活動への理解を求めた。

川越市役所では川合善明市長と会談。例年は街頭で市民にチラシなどを直接配布してきたが、今夏は新型コロナウイルスの影響で自粛を余儀なくされたことから、市役所・公民館などに置いてもらい、市民が手に取れるよう協力を呼び掛けた。

会談の中で、同支部の柴崎弓弦副支部長は「夏場は感電事故の発生率が高いとされており、キャンペーンの重要性は増している。広報活動の成果を上げるためにもぜひ支援をお願いしたい」と訴えた。